

ダイズの病害虫防除対策（9月）

1 紫斑病

- (1) 近年、発生量は減少傾向にありますが、開花後20～40日頃に降雨があると、その後感染が急激に拡大します。
- (2) 薬剤防除はダイズの開花後20～40日頃に1～2回実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するように散布してください。
- (3) 収穫の遅れや乾燥が遅れると被害が大きくなるため、適期収穫、速やかな乾燥・脱穀を心がけてください。
- (4) 防除薬剤は、「ダイズの病害虫防除対策（8月）」の表1を参照してください。

2 吸実性カメムシ類

- (1) 開花期（7月下旬～8月上旬）以降に飛来し、莢や葉に産卵することで幼虫が黄熟期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に加害されると、種子がほとんど肥大しなくなります。中期以降に加害されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。
- (2) 着莢期（8月中下旬）～子実肥大盛期（9月中旬）に1～2回薬剤による防除を行ってください。
- (3) 県内ではホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、クサギカメムシが主な発生種です。
- (4) 防除薬剤は、「ダイズの病害虫防除対策（8月）」の表7を参照してください。

3 マメシクイガ

- (1) 土中に繭を作り、越冬するため、連作を続けると発生量が急激に増加します。3年以上の連作はさけ、田畑輪換を行ってください。
- (2) 成虫は年1回、8月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は年ごとに大きく変動しません。成虫が8月下旬～9月中旬に莢に産卵し、幼虫は種子を加害して20日程度で脱出します。
- (3) 3年以上連作しているほ場では8月5半旬頃の薬剤防除を基本とし、多発が予想される場合には9月1～2半旬にも追加防除を行ってください。
- (4) 防除薬剤は、「ダイズの病害虫防除対策（8月）」の表8を参照してください。

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 第1世代成虫は7月からみられ始め、子葉や葉を加害しますが、大きな実害はありません。子実肥大期に莢の表面が加害されることで変色し、子実に黒斑が生じ、腐敗粒となって品質が低下します。
- (2) 薬剤散布は子実肥大期（9月上～下旬）に実施してください。

表1 フタスジヒメハムシの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分名 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数の制限※ |
|------------|---------|------|-----------------|--------------|----------|
| アルバリン顆粒水溶剤 | ジノテフラン | 4 A | 収穫7日前まで | 3,000倍 | 2回以内 |
| アルバリン粉剤DL | ジノテフラン | 4 A | 収穫7日前まで | 3 kg | 2回以内 |
| スタークル液剤10 | ジノテフラン | 4 A | 収穫7日前まで | 1,000倍 | 2回以内 |
| スタークル顆粒水溶剤 | ジノテフラン | 4 A | 収穫7日前まで | 3,000倍 | 2回以内 |
| スタークル粉剤DL | ジノテフラン | 4 A | 収穫7日前まで | 3 kg | 2回以内 |
| ダントツ水溶剤 | クロチアニジン | 4 A | 収穫7日前まで | 2,000～4,000倍 | 3回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：3回以内（は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）
- ・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：4回以内（は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内）

5 ダイズサヤタマバエ

- (1) 莢がごく小さいうちに莢内に産卵し、幼虫が成長すると莢や子実が成長を停止し、コブのような形になります。
- (2) 成虫は開花期～若莢期（8月下旬～9月上旬頃）に産卵するため、防除は着莢後期（8月下旬）～子実肥大盛期に実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するように散布してください。

表2 ダイズサヤタマバエの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分名 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 使用濃度 | 使用回数の制限※ |
|---------|-------|------|-----------------|--------|----------|
| スミチオン乳剤 | MEP | 1 B | 収穫21日前まで | 1,000倍 | 4回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内

6 サヤムシガ類

- (1) ダイズサヤムシガやマメヒメサヤムシガの幼虫が葉や莢を加害します。
- (2) 着莢期～子実肥大盛期に防除を実施してください。

表3 サヤムシガ類の防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分名 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 10a 当たり使用量 | 使用回数 の制限※ |
|---------|-------|------|-----------------|------------|--------------|
| スミチオン乳剤 | ME P | 1 B | 収穫21日前まで | 1,000倍 | 4回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ME Pを含む農薬の総使用回数：4回以内

7 シロイチモジマダラメイガ

- (1) 被害はマメシクイガに似ていて、莢内に入って子実を加害します。
- (2) 着莢期～子実肥大盛期に防除を実施してください。

表7 シロイチモジマダラメイガの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分名 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 10a 当たり使用量 | 使用回数 の制限※ |
|--------|------------|------|-----------------|------------|--------------|
| トレボン乳剤 | エトフェンブロックス | 3 A | 収穫14日前まで | 1,000倍 | 2回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・エトフェンブロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

8 ハスモンヨトウ

- (1) 野菜など多くの作物を加害し、ダイズほ場には8月頃に飛来し、葉裏に産卵します。若齢幼虫はまとまって葉裏を加害するため、幼虫がいると葉の白変が目立ちます。中齢以上になると加害量が増え、若い莢を加害することもあります。
- (2) 葉の白変が目立ったら薬剤防除を実施してください。老齢幼虫には薬剤の効果が劣る場合があります。

表8 ハスモンヨトウの防除薬剤

| 薬剤名 | 有効成分名 | 薬剤系統 | 使用時期 (収穫前日数) | 10a 当たり使用量 | 使用回数 の制限※ |
|-----------|---------|------|-----------------|--------------|--------------|
| プレオフロアブル | ピリダリル | UN | 収穫7日前まで | 1,000～2,000倍 | 2回以内 |
| ロムダンフロアブル | テブフェノジド | 1 8 | 収穫14日前まで | 2,000倍 | 3回以内 |

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ピリダリルを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・テブフェノジドを含む農薬の総使用回数：3回以内

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがありますので、農薬登録情報提供システムホームページ (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください（記載中の登録内容は令和4年8月22日現在）。特記がない場合、液剤、水和剤、乳剤、フロアブル剤の散布液量は10a当たり100～300L散布する。